

料理人

師匠「お前はまだまだ料理人としては半人前だな」

おい「半人前？」

師匠「一人前じゃないってことよ」

おい「はあ、では、どうすれば一人前の料理人になれるか？」

師匠「そうだなあ……まず、技術を磨きな。つぎに、自分にしか

出せない味を追求するんだ。そして、お客に喜ばれる店を作

ることだ。」

問 師匠の言いつけを守って、一人前の料理人になるための

修業をしたいと思います。次の修業のうち、一人前の料理人に

なるためにふさわしくないとと思われるものを選びましょう。

ア いろいろな料理を作る練習を繰り返す。

イ 山にこもり滝に打たれる。

ウ オリジナルのレシピを考える。

エ 他のお店に出かけていき、その店のよいところをさがす。

2 はらぺこあおむし

しょうがつこうさんねんせい おとうと ぶくしよかんそうぶん か
小学校三年生の 弟が読書感想文を書きました。

ねえ
「お姉ちゃん、見て」

い み
と言うので、見てみると『はらぺこあおむし』の読書感想文です。

さんねんせい おも
三年生なのに、『はらぺこあおむし』かよ……と思いながら

おとうと か
① 弟の書いた感想文を読んでもみると、漢字の誤りや、句読点の

なんこ わたし
おかしいところが何個もあります。私は②漢字の誤りや、句

どうてん なお
読点のおかしいところを直してあげて、弟に感想文を返しまし

た。

問 ——— 線部①②をこそあど言葉で言い換えます。アゝオから選

きごう こた
んで記号で答えましょう。

① () () ② () ()

ア これ イ その ウ あの

エ それら オ どれ

3 宿題と私

私は、夜おそくまで宿題をしていました。

ひどいときは夜の九時まで宿題をしていました。

本気を出せば三十分もかからないような宿題に、なぜそんな

に時間がかかるのかというと、私は宿題をしながら、途中でマ

ンガを読んだり、テレビを見たり、スマホをいじったりしていた

からです。あと、ぼーっとする時間もたくさんあります。

(ー)、私は勉強と遊びのけじめがついていなかったのです。

(2)、今の私はちがいます。宿題をするときは、タイマーを使っています。自分で時間を決めて、タイマーを使うあいだは宿題しかやりません。

おかげで、宿題をさっさと終わらせる毎日をすごしています。自由になる時間が前より増えた気がして、とても気分がいいです。

問1 (1) (2) に^あに当てはまる^{せつぞくひょうげん}接続表現 (つなぎ言

葉) ^{えら}を選びましょう。

ア しかし イ そして ウ なぜなら エ つまり

1 () 2 ()

問2 「私」が宿題をさっさと終わらせることができたのはなぜ
ですか。() に当てはまる言葉を書きましょう。

から。

4 肉係

今日は、三太さんたの家の庭にわでバーベキューをします。

三太さんたの家のバーベキューは、いつも「肉係にくがかり」といって、お肉を

焼く係を一人決きめて、その人がずっと炭火すみびの前で肉を焼きます。

いつもはお父さんが「肉係にくがかり」をしていました。

ところが、今日はとつぜんお父さんが

「誰だれか肉係にくがかりをやってみないか」

と言いました。

そこで三太さんたが

「ぼくがやりたい」

と手を上げたところ、お母さんとお姉ちゃんが

「三太さんた、本当に大丈夫？」

と不安ふあんそうです。

「いいじゃないか、三太さんた。やってみろ。肉なんか誰が焼いてもた
いして変わらないよ」

と言うお父さんにたいして、

「それは違う」

「お父さんの焼き加減かげんが最高においしい」

とお母さんとお姉ちゃんは真っ向から反対していました。

しかし、しばらく話し合いが続いた後、結局三太が肉係に任命されました。

問ー とつぜんお父さんが「誰か肉係をやってみないか」と言ったのはなぜですか。

ア めんどくさかったから。

イ 三太に肉係の練習をさせたかったから。

ウ いつも自分ばかりが肉係でずるいと思っていたから。

エ 書いていないから分からない。

問2 ――線部「それ」の指す内容として当てはまるものを選び
ましょう。

ア 三太が肉を焼くと黒こげになってしまうこと。

イ 肉なんか誰が焼いてもたいして変わらないこと。

ウ お父さんの焼くお肉が一番おいしいこと。

エ お肉もいいけど、野菜も食べないとだめなこと。

問3 この文章を簡単にまとめました。() にあてはまる
言葉を選びましょう。

三太の家のバーベキューで、誰が肉係をするかでちよつとした

() があつた。

ア あやふや イ あけすけ ウ いざこざ

エ ささやか

5 落とした財布

リビングの方から、お母さんの悲鳴ひめいが聞こえました。

「いやあああああ」

三太さんたは一瞬、ゴキブリが出たのかと思いました。

あわてたお父さんが、

「どうした？」

と聞いています。

お父さんとお母さんのやりとりを聞いていると、どうやらお母さんが、財布さいふを落としてしまったようです。

お父さんが、

「では、私が超能力ちやうのうりよくで財布さいふの行方ゆくえを透視とうししましょう。」

と言ったら、お母さんに

「バカなの？ねえ、バカなの？」

とすごく怒られていました。

怒られたお父さんは、ごめんなさいごめんなさいごめんなさい
と言いながら、お母さんがお買い物をしたショッピングセンター
に電話をかけました。

すると、財布さいふの落とし物が届けられていたそうです。

「よかったね。」

とお父さんは落ち着いて言いましたが、お母さんは変な笑いを浮かべながらお父さんをにらみつけていました。

三太も、お父さんはいくらなんでもふざけすぎだと思いました。

問ー お母さんが悲鳴をあげたのはなぜですか。

ア 財布を落としたのに気付いたから。

イ ゾンビ映画を観ていたから。

ウ ゴキブリが出たから。

エ お父さんが超能力者だったから。

問2 「いくらなんでもお父さんはふざけすぎだと思いました」
とありますが、三太がこのように思った理由として合っている
ものを選びましょう。

ア お母さんは財布を落として深刻な状況になっているのに、
しんこく じようぎよう

お父さんが超能力ちようのうりよくを使って財布のありか突き止めたから。

イ お母さんは財布を落として深刻な状況しんこく じようぎようになっているのに、

お父さんが超能力ちようのうりよくを使うという冗談じようだんを言ったから。

ウ お母さんは財布を落として深刻な状況しんこく じようぎようになっているのに、

お父さんの超能力ちようのうりよくが使い物にならなかったから。

エ お母さんは財布を落として深刻な状況しんこく じようぎようになっているとき

に、お父さんが実は超能力者ちようのうりよくしやだということが分かったから。

6 茶碗蒸し

コウタには五歳になる弟がいます。名前はリョウタです。

この日の晩ご飯は茶碗蒸しちやわんむでした。

コウタはとってもおいしく食べていましたが、①リョウタは変

な顔をしていて、茶碗蒸しちやわんむを食べようとしません。他のおかずは

かり食べています。

お母さんが、

「リョウタ。ちやわんむ茶碗蒸し、食べないの?」

と不思議そうに聞きくと。

「いない。」

と首をふりました。

「じゃあ、ぼくがもらっていい?」

とコウタが聞きました。

「お兄ちゃん、よくそんなの食べれるな。」

「えっ、おいしいよ? 食べないんだったら、もらうよ。」

「だって……」

リョウタはもう泣きそうな顔になっています。

「だって、ぼく、虫なんか食べたくない……」

「えっ？」

コウタが驚いている横で、②お母さんが、笑い出しました。

「虫は入っていないよ。」

コウタも意味が分かって笑い出しました。

『ちやわんむし』の『むし』は、虫ではありません。

『蒸し』とは、お湯の蒸気じょうきであたためるという意味です。もとの形は『蒸す』むです。

その後、リョウタくんは、安心して茶碗蒸しちやわんむを食べました。

問1——線部①、リョウタが茶碗蒸しを食べたがらないのはなぜですか。

ア 茶碗蒸しが好きではなかったから。

イ 茶碗蒸しに、虫が入っていたから。

ウ 茶碗蒸しなんてこの世から消えればいいと思っているから。

エ 茶碗蒸しには、虫が入っていると思ったから。

問2——線部②、お母さんが笑い出した理由について次のようにまとめました。()に合う言葉を後のヒントから選んで書きましょう。ヒントには、使わない言葉もあります。

◆ () が、茶碗蒸しの中に () が入っている () していることが分かったから。

ヒント

コウタ リョウタ お母さん

虫 カブトムシ マンディブラリスフタマタクワガタ

かんちがい ウソ泣き がまん

7 お弁当

あーるずくん、ゴマちゃん、シロクマくんの三人は、公園でお弁当を食べていました。

お弁当は、みんな大好きから揚げ弁当です。

レジャーシートを広げて、ゴマちゃん、あーるずくん、シロクマくんの順に、横にならんで食べています。

なぜ横にならんでいるかというと、ちょうど目の前に湖があって、その景色がとてもきれいだからです。

あーるずくんはから揚げが好物です。あーるずくんのお弁当のから揚げはあと3個残っていました。

「きれいな景色だね」

シロクマくんが、あーるずくに話かけました。

あーるずくんは、

「そうだね。それに、風もとっても気持ちいいね。」

とシロクマくんの方を向いて返事をして、から揚げを食べようとお弁当を見ると。

「あれっ？」

なんと、から揚げがあと2個しかありません。

(ぼくの数え間違いかな?)

と思ってゴマちゃんを見ました。ゴマちゃんは、あーるずくんと目を合わせず、まっすぐ前を向いて口をモグモグ動かしています。

(あやしい……)

あーるずくんは、

「ねえねえシロクマくん。」

と言って、わざとらしくシロクマくんの方に顔を向けると見せかけて、弁当に視線を合わせていました。

すると、ゴマちゃんがあーるずくんのお弁当にはしを伸ばしてきました。ねらいはもちろんから揚げです。

「こらっ!」

あーるずくんが、ゴマちゃんをしかったです。

「人のお弁当を食べたらだめだよ!」

ゴマちゃんは泣きそうな顔をして、

「ごめんなさい。」

とあやまりました。

問1 真ん中にすわっているのは誰ですか。

ア あーるずくん イ ゴマちゃん ウ シロクマくん

問2 あーるずくんのから揚げを横取りしたのは誰ですか。

ア あーるずくん イ ゴマちゃん ウ シロクマくん

問3 ——線部のようにあーるずくんが行動したのはなぜでし

ようか。理由を説明した次の文の（ ）にあてはまる言葉を
書きましょう。

あーるずくんがシロクマくんの方を向いたら、

と考えたから。